

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Diagnostic usefulness of FDG PET for pancreatic mass lesions
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か
書誌情報	研究デザイン	1.ペ'ー 2.ナ'ト'リス 3.シグ'ル化比較試験 4.非シグ'ル化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ann Nucl Med
	雑誌 ID	
	巻	15
	号	
	ページ	217-224
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2001
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Koyama K
	その他著者1	Dept. of Radiology, Nuclear Medicine, Surgical Oncology, Osaka City University
	その他著者2	Kawabe J
	その他著者3	Nakata B
	その他著者4	Chung KH
	その他著者5	Ochi H
	その他著者6	Yamada R
	その他著者7	
	その他著者8	
	その他著者9	
	その他著者10	

一次研究の8項目		目的	膵臓癌診断におけるCT, MRIと比較した場合のPET可能性の評価。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		Depts. Radiology, Nucl Med, Surg Oncol, Osaka City University	
対象者		US, CT and/or MRIで膵臓癌を指摘され、PETを行った86例(1993年10月～1999年6月)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人	
		22.年齢区別せず (22)	
介入(要因曝露)		CT, MRIでの膵臓癌診断に対するPETの介入	
エンドポイント(アウトカム)		エンドポイント 区分	
主な結果	1	画像診断でのCT	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	MRI, PETの診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	PETでのSUV	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
結論		感度, 特異度, PPV, NPV, 正診率はCTは91, 62, 88, 84%, MRIは78, 70, 88, 54, 76%, PETは82, 81, 93, 59, 81%であった。SUVあるいは高血糖時に血糖補正したSUV glucoseは、膵癌では良性腫瘍に対して有意に高値であった。	
備考		膵臓癌診断において、SUVおよびSUV glucoseを用いたPET診断は、CTあるいはMRIによる診断精度を向上させるのに必要である。	
レビューウーラメント		水野伸匡, 澤木 明	
レビューウーラメント		腫瘍径に関わらず、PETではfalse negativeが多い。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	<sup>18</sup> Fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in the management of patients with suspected pancreatic cancer
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か
書誌情報	研究デザイン	1.ペ'ー 2.ナ'ト'リス 3.シグ'ル化比較試験 4.非シグ'ル化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ann Surg
	雑誌 ID	
	巻	229
	号	
	ページ	729-737
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1999
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Department of Surgery, Vanderbilt University Medical Center, the Vanderbilt Cancer Center, Nashville, Tennessee
	その他著者1	Rose DM
	その他著者2	Delbeke D
	その他著者3	Beauchamp RD
	その他著者4	Chapman WC
	その他著者5	Sandler MP
	その他著者6	Sharp KW
	その他著者7	Richards WO
	その他著者8	Wright JK
	その他著者9	Frexes ME
	その他著者10	Pinson CW
		Leach SD

一次研究の8項目		目的	膵癌診断におけるFDG-ET(PET)の正診率と臨床的意義、およびneoadjuvant chemotherapy (NACx) の治療効果判定における有用性を検討。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		Department of Surgery, Vanderbilt University Medical Center, the Vanderbilt Cancer Center, Nashville, Tennessee	
対象者		原発性あるいは再発性的膵癌が疑われた65例(1995～1998年)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
主な結果	1	乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人	
	2	22.年齢区別せず (22)	
	3	介入(要因曝露)	膵癌の疑われる症例に対する CT vs PET, NACxに対するPETによる治療効果判定。
	4	エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント 区分
	5	1	良悪性の鑑別 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	6	2	NACx前後の評価 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	7	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
結論	7	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		11	65例中、52例が膵癌、13例が良性疾患。感度・特異度はPETでは92, 85%、CTでは65, 62%。NACxを行った9例中、PETでは4例で腫瘍の縮小を確認。CTでは全例は治療効果の判定はできず。術後再発が疑われた8例中、4例は局所再発を、4例は肝転移を検出できた。
		12	原発・再発を問わず、膵癌の診断にPETはCTに比して有用である。さらに治療効果判定にも有効であった。
		13	術後再発が疑われた症例の取り扱いが問題となる。
		14	
		15	
		16	
レビューウーラメント		水野伸匡, 澤木 明	
レビューウーラメント		PETは、特に2cm以下の小膵癌の検出に優れていた。PET陰性となる症例の取り扱いが問題となる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肝臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Role of EUS in the preoperative staging of pancreatic cancer: A large single center experience
	論文の日本語タイトル	肝臓癌の術前検査成績の全国調査
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	肝癌の診断法：セカンドステップは何か
	研究デザイン	1.レピュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	Radioisotopes
	雑誌 ID	
	巻	49
	号	
	ページ	101-105
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	2000
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	小西淳二
	その他著者1	中本裕士
	その他著者2	東 達也
	その他著者3	
	その他著者4	
	その他著者5	
	その他著者6	
	その他著者7	
	その他著者8	
	その他著者9	
	その他著者10	

一次研究の8項目	目的	膵癌の良悪性的鑑別診断におけるFDG-PET検査の有用性を検討。 抗腫瘍治療効果の判定。
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	5施設、271症例	
対象者	膵臓癌が疑われた患者（～1998年7月）	
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
対象者情報（年齢）		
介入（要因曝露）	GDF-PET検査	
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
1	FDG-PETによる描出能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果		感度89%，特異度71.1%，正診率84.1% 腫瘍径別の解析では2cm以下では68.8%，2cmを超えると100%治療効果判定は不明。
結論		FDG-PETにおける膵癌診断の正診率は高く、高精度な鑑別診断が可能となる。
備考		
レビューアー氏名	澤木 明、水野伸吾	
レビューアーコメント		他施設アンケートの結果の集積によりFDG-PET検査の経験に対する診断能に対する一定の評価がされている。施設間での検査および診断方法の差があることに注意すべき。Nは多いが評価が異なることよりレベルVとした。
レビューアーコメント	レビューアーコメント	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肝臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Role of EUS in the preoperative staging of pancreatic cancer: A large single center experience
	論文の日本語タイトル	肝臓癌の術前検査成績の全国調査
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	肝癌の病期診断(TNM因子)に有効な検査法は何か
	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	Gastrointest Endosc
	雑誌 ID	
	巻	50
	号	
	ページ	786-791
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1999
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Gress FG
	その他著者1	Hawes RH
	その他著者2	Savides TJ
	その他著者3	Ikenberry SO
	その他著者4	Cummings O
	その他著者5	Kopecky K
	その他著者6	Sherman S
	その他著者7	Wiersema M
	その他著者8	Lehman GA
	その他著者9	
	その他著者10	

一次研究の8項目	目的	膵癌での術前のEUSとCTでのstagingを手術によるstagingと比較し、正診度を検討する。
研究デザイン	Evidence level III	
セッティング	Division of Gastroenterology and Hepatology, Departments of Pathology and Radiology, Indiana University School of Medicine, Indiana University Medical Center, Indianapolis, USA	
対象者	151 consecutive patients (1990年4月～1998年11月)	
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
対象者情報（年齢）		
介入（要因曝露）	自験例の前向き研究	
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
1	T因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	N因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	血管浸潤	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4	切除可能の正診度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果		• 151例中81例 (60%) が手術を受けた。 • T因子の正診度：EUS 85%, CT 30% • N因子の正診度：EUS 72%, CT 55% • 血管浸潤の正診度：EUS 93%, CT 62% • 切除可能な正診度：EUS 93%, CT 60%
結論		EUSは術前診断においてCTを上回る。
備考		
レビューアー氏名	井上總一郎、中尾昭公	
レビューアーコメント	レビューアーコメント	EUSの熟練度にも言及している。

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Preoperative staging and tumor resectability assessment of pancreatic cancer: Prospective study comparing endoscopic ultrasonography, helical computed tomography, magnetic resonance imaging, and angiography
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	膵癌の病期診断(TNM因子)に有効な検査法は何か 1.レピュート 2.リガリス 3.ラグドム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (3)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Am J Gastroenterol
	雑誌 ID	
	巻	99
	号	
	ページ	492-501
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2004
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Soriano A
	その他著者 1	Castells A
	その他著者 2	Ayuso C
	その他著者 3	Ayuso JR
	その他著者 4	de Caralt MT
	その他著者 5	Gines MA
	その他著者 6	Real MI
	その他著者 7	Gilabert R
	その他著者 8	Quinto L
	その他著者 9	Trilla A
	その他著者 10	Feu F et al.

一次研究の 8 項目	目的	膵癌のstagingおよびresectabilityを判定する上において、EUS, helical CT, MRI, 血管撮影のいずれが効果があるかをprospectiveに評価
	研究デザイン	Evidence level II
	セッティング	Department of Gastroenterology, University of Barcelona, Barcelona, Catalonia, Spain
	対象者	膵癌の疑いにて、彼らの施設に入院し、開腹術の適応と判断された62症例 (1995年10月～2000年3月)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区分せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)
	介入 (要因曝露)	術前評価のため、EUS, CT, MRI, 血管撮影を行い、原発腫瘍, 局所進展, リンパ節転移, 血管浸潤, 遠隔転移, TNM stage, resectabilityを診断し、手術所見と比較した。
エンドポイント (アタリカル)	エンドポイント	区分
	1	各因子の正診率 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果		Helical CTは、原発腫瘍の範囲、局所進展、血管浸潤、遠隔転移、TNM stage, resectabilityを評価する上で、最も高い正診率を認めた。一方、EUSは、腫瘍径、リンパ節転移の評価で、最も正診率が高かった。決定解析によると、resectabilityを評価する最前の方法は、まず、CTもしくはEUSを評価し、切除の可能性のある症例に対して、他の検査を追加することとされた。コストを最小にとどめるためには、CTにて切除の可能性が示唆された患者に対して、EUSにて確認するのが望ましい方法であった。
		Helical CTとEUSは、膵癌のstagingにあたって最も有用な検査である。切除の可能性のある症例においては、helical CTとEUSが最も信頼できる、コストのかからない診断法と考えられた。
		参考
レビュー一覧	レビューアー氏名	阪井 滉、井上総一郎
	レビュー一覧コメント	前向きな検討で、方法としても妥当と考えられる。

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	EUS in preoperative staging of pancreatic cancer
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	膵癌の病期診断(TNM因子)に有効な検査法は何か 1.レピュート 2.リガリス 3.ラグドム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Gastrointest Endosc
	雑誌 ID	
	巻	52
	号	
	ページ	463-468
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2000
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Ahmad NA
	その他著者 1	Gastroenterology Division, Department of Medicine, Center for Clinical Epidemiology and Biostatistics, Lewis JD
	その他著者 2	Ginsberg GG
	その他著者 3	Department of Surgery, Hospital of the University of Pennsylvania, Kochman ML
	その他著者 4	Rosato EF
	その他著者 5	Morris JB
	その他著者 6	Kochman ML
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	EUSを用いた経緯の術前評価の検討
	研究デザイン	Evidence level IV
	セッティング	Gastroenterology Division, Department of Medicine, Center for Clinical Epidemiology and Biostatistics, Department of Surgery, Hospital of the University of Pennsylvania, Philadelphia, USA
	対象者	89例の膵癌患者 (1995年1月～1997年12月)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区分せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)
	介入 (要因曝露)	後ろ向きコホト研究
	エンドポイント	区分
	1	TNM分類のaccuracy 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
主な結果	2	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		EUS accuracy:T= 69% N= 34% Operability accuracy:46% T3もしくはT4でEUSにてnon resectableと診断されたものでも、実際開腹してみると切除できた例が50%以上あった。
結論		EUSでのstagingは以前いわれていたように正確なものではない。切除可能予測も正確ではない。
		参考
		谷井英樹, 井上総一郎
レビュー一覧	レビューアー氏名	EUSの施行と読影には、その施設ごと施行者ごとの技量によって大きく左右されるだろう。
	レビュー一覧コメント	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Laparoscopy with laparoscopic ultrasonography in the TNM staging of pancreatic carcinoma
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の病期診断(TNM 因子)に有効な検査法は何か
書誌情報	研究デザイン	1.レポート 2.ナタリス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例对照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医誌 ID	
	雑誌名	World J Surg
	雑誌 ID	
	巻	23
	号	
	ページ	870-881
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1999
	氏名	所属機関
	筆頭著者	John TG
	その他著者 1	The Royal Infirmary University Department of Surgery, UK
	その他著者 2	Allan PL
	その他著者 3	Redhead DN
	その他著者 4	Paterson-Brown S
	その他著者 5	Carter DC
	その他著者 6	Garden OJ
著者情報	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	膵癌乳頭部癌の切除の可否を腹腔鏡・腹腔鏡エコー・体外式エコー・CT・SMA PV Angioで診断し比較する。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		The Royal Infirmary University Department of Surgery, UK	
対象者		膵または乳頭部癌50例 (1993年3月～1995年4月)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区分せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)	
対象者情報(年齢)		介入(要因曝露)	膵または乳頭部癌50例を対象に、腹腔鏡と腹腔鏡下USと体外式USとCTと血管撮影とで resectability の評価能力を前向きに比較した。
		エンドポイント	区分
1		診断率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2			1.主要 2.副次 3.その他 ()
3			1.主要 2.副次 3.その他 ()
4			1.主要 2.副次 3.その他 ()
5			1.主要 2.副次 3.その他 ()
6			1.主要 2.副次 3.その他 ()
7			1.主要 2.副次 3.その他 ()
8			1.主要 2.副次 3.その他 ()
9			1.主要 2.副次 3.その他 ()
10			1.主要 2.副次 3.その他 ()
		主な結果	膵または乳頭部癌のTNM因子、M因子、N因子につき各々の検査法で診断した上で切除の可否に対する診断率を求めたところ、体外式エコーやの Sensitivity, Specificity, PPV, NPV は 0.67, 0.56, 0.80, 0.40 であった。CTでは 0.66, 0.54, 0.79, 0.38、腹腔鏡エコーは 0.83, 0.93, 0.97, 0.68 で Angio では 0.62, 0.64, 0.82, 0.40 であった。
		結論	腹腔内エコーは resectability の決定診断のためには最も有用である。
		備考	
レビューワーカメント	レビューワー氏名	呉 成浩、井上総一郎	
	レビューワーコメント	腹腔内エコーの診断率が他の検査に比し著明に有効であったとする報告だが、手技と器械精度、読影能力の点で報告通りの診断率が得られるかは疑問である。特に肝転移については全体を網羅して調べることは不可能と思われる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	TNM staging and assessment of resectability of pancreatic cancer by laparoscopic ultrasonography
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の病期診断(TNM 因子)に有効な検査法は何か
書誌情報	研究デザイン	1.レポート 2.ナタリス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例对照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医誌 ID	
	雑誌名	Surg Endosc
	雑誌 ID	
	巻	13
	号	
	ページ	967-971
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1999
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Scheel-Hincke JD
	その他著者 1	Dept. of Surgical Gastroenterology, Odense University Hospital, Denmark
	その他著者 2	Mortensen MB
	その他著者 3	Hovendal CP
	その他著者 4	
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	膵癌で腹腔鏡下US検査のTNM診断と切除可能予測を検討する
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		Department of Surgical Gastroenterology, Odense University Hospital, Denmark	
対象者		CT等で遠隔転移を除く膵癌35例 (1995～1997年)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区分せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)	
対象者情報(年齢)		介入(要因曝露)	自験例の前向き研究
		エンドポイント	区分
1		TNM staging	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		手術適応の感度と特異度	1.主要 2.副次 3.その他 ()
3			1.主要 2.副次 3.その他 ()
4			1.主要 2.副次 3.その他 ()
5			1.主要 2.副次 3.その他 ()
6			1.主要 2.副次 3.その他 ()
7			1.主要 2.副次 3.その他 ()
8			1.主要 2.副次 3.その他 ()
9			1.主要 2.副次 3.その他 ()
10			1.主要 2.副次 3.その他 ()
		主な結果	腹腔鏡下US検査のT, N, M, TNM stage の特異度は、80%, 76%, 68%, 68% であった。非切除、遠隔転移、リンパ節転移の感度は、0.86, 0.43, 0.67 であった。腹腔鏡検査と腹腔鏡下US検査を行うと非切除の特異度は89%であった。
		結論	腹腔鏡検査時にUS検査を併施すると、TNM診断と非切除診断に有効である。
		備考	
レビューワーカメント	レビューワー氏名	金住直人、井上総一郎	
	レビューワーコメント	低侵襲に非切除診断ができる有効性がある。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	A combined PET/CT scanner for clinical oncology
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	肺癌の病期診断(TNM 因子)に有効な検査法は何か
	研究デザイン	1.レピュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	J Nucl Med
	雑誌 ID	
	巻	41
	号	
	ページ	1369-1379
	ISSN ナンバー	
著者情報	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2000
	氏名	所属機関
著者情報	筆頭著者	Beyer T
	その他著者 1	PET Facility and Division of Nuclear Medicine, Department of Radiology, University of Pittsburgh, Pittsburgh, Pennsylvania
	その他著者 2	Townsend DW
	その他著者 3	Brun T
	その他著者 4	Kinahan PE
	その他著者 5	Charron M
	その他著者 6	Roddy R
	その他著者 7	Jerin J
	その他著者 8	Young J
	その他著者 9	Byars L
	その他著者 10	Nutt R

一次研究の 8 項目	目的	PET/CTスキャンの有効性の検証
研究デザイン	Evidence level IV	
セッティング	PET Facility and Division of Nuclear Medicine, Department of Radiology, University of Pittsburgh, Pittsburgh, Pennsylvania	
対象者	110例を超える各種癌患者	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)	
対象者情報 (年齢)	なし	
介入 (要因曝露)	エンドポイント (アレルギー)	区分
	1 痘の存在診断	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	有効であった肺、食道、肺癌の3例が提示されている。	
結論	PET/CT スキャンの臨床応用の最初の報告。	
備考		
レビューウーフィルム	中尾昭公、井上紹一郎	
レビューウーフィルム	PET/CTスキャンの臨床応用の最初の報告。	
レビューウーフィルム	レビューウーフィルム	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Ultrasound guided fine needle biopsy of pancreatic masses : Results of a Multicenter Study
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レピュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	Am J Gastroenterol
	雑誌 ID	
	巻	93
	号	
	ページ	1329-1333
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1998
	氏名	所属機関
著者情報	筆頭著者	Di Stasi M
	その他著者 1	Lencioni R
	その他著者 2	Solmi L
	その他著者 3	Magnolfi F
	その他著者 4	Caturelli E
	その他著者 5	De Sio I
	その他著者 6	Salmi A
	その他著者 7	Buscarini L
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	肺腫瘍性病変に対する21~22G針を使用したUSガイド生検の診断能の retrospectiveな検討
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	7つのイタリアの施設の集計	
対象者	同期間にUSガイド下生検を行った肺腫瘍510例、肺癌323例、悪性転移52例、転移性肺癌17例。他 (1982~1996年)	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)	
対象者情報 (年齢)	介入 (要因曝露)	USガイド下生検を行った肺腫瘍における細胞診287例、組織診95例、細胞診+組織診128例の成績比較
	エンドポイント (アレルギー)	エンドポイント 区分
	1 採取率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2 感度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3 特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4 正診率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果		細胞診、組織診、細胞診+組織診各々で、採取率94, 96, 97%、感度87, 94, 94%、特異度100, 100, 100、正診率は91, 90, 95%であった。合併症は、無症候性血腫1、迷走神経反射3、疼痛21例であった。
結論		USガイド下FNABは治療法決定に有用であった。
備考		
レビューウーフィルム	山雄健次、田近正洋	
レビューウーフィルム	他施設共同研究、多数例の検討であるが、研究期間が長く後ろ向き研究であることが難点。	
レビューウーフィルム	レビューウーフィルム	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	K-ras gene mutations in the diagnosis of fine-needle aspirates of pancreatic masses : Prospective study using two techniques with different detection limits
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
誌誌情報	研究デザイン	1.レピュート 2.ナットワーク 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.ホット研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Clin Chem
	雑誌 ID	
	巻	44
	号	
	ページ	2243-2248
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1998
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Mora J
	その他の著者 1	Hospital de la santa Creu I Sant Pau, Spain
	その他の著者 2	Puig P
	その他の著者 3	Bondas J
	その他の著者 4	Urgell E
	その他の著者 5	Montserrat E
	その他の著者 6	Lerma E
	その他の著者 7	Gonzalez-Sastre F
	その他の著者 8	Lluis F
	その他の著者 9	Farre A
	その他の著者 10	Capella G

一次研究の 8 項目		目的	膵臓癌に対するUS(90%)、CT(10%)ガイドした生検のKras突然変異のprospectiveな検討
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		Hospital de la santa Creu I Sant Pau, Spain	
対象者		同期間にUSまたはCTガイド下生検を行った膵臓癌連続62例 (膵癌45例、良性4例) (1995から1997年)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)		細胞診およびK-ras突然変異	
エンドポイント (評価)		エンドポイント	区分
主な結果	1	細胞診の感度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	Kras 突然変異の陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
結論	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
			細胞診の感度75%であった。K-ras突然変異陽性率はenrich 81%, Standard 63%, 偽陽性はなし。感度は細胞診+enrichで91%, Standardで80%であった。
備考			
レビューワークメント	レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
	レビューワーコメント	Enriched K-ras測定は膵癌の細胞診の診断能向上に寄与する。良性例が少ない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	K-ras gene mutation in the diagnosis of ultrasound guided fine-needle biopsy of pancreatic masses
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
誌誌情報	研究デザイン	1.レピュート 2.ナットワーク 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.ホット研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	World J Gastroenterol
	雑誌 ID	
	巻	9
	号	
	ページ	188-191
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Zheng M
	その他の著者 1	Harbin Medical University
	その他の著者 2	Liu LX
	その他の著者 3	Zhu AL
	その他の著者 4	Qi SY
	その他の著者 5	Jiang HC
	その他の著者 6	Xiao ZY
	その他の著者 7	
	その他の著者 8	
	その他の著者 9	
	その他の著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	膵臓癌に対するUSガイド下細胞診とK-ras測定の意義
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		Harbin Medical University	
対象者		同期間にUSガイド下生検を行った膵臓癌66症例 (1997~2001年)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)		USガイド下細胞診とK-rasの成績比較	
エンドポイント (評価)		エンドポイント	区分
主な結果	1	細胞診の感度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	Kras 突然変異の陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
結論	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
			細胞診74%, Kras突然変異の陽性率83%, 特異度100%
備考			細胞診とKras測定は膵臓癌の鑑別診断に有用である。
レビューワークメント	レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
	レビューワーコメント	以前のレポートと同様の成績、内容である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Percutaneous CT-guided fine needle aspiration cytology in the differential diagnosis of pancreatic lesions
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
雑誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リポート 3.シグマ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ital J Gastroenterol
	雑誌 ID	
	巻	26
	号	
	ページ	126-131
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1994
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Spetti C. パドバ大学、イタリア
	その他著者 1	Pasquali C.
	その他著者 2	Di Prima F.
	その他著者 3	Rugge M
	その他著者 4	Petrin P
	その他著者 5	Costantino V
	その他著者 6	Canton A
	その他著者 7	Pedrazzoli S
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Molecular diagnosis of exocrine pancreatic cancer using a percutaneous technique
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
雑誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リポート 3.シグマ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ann Surg Oncol
	雑誌 ID	
	巻	3
	号	
	ページ	241-246
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1996
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Evans DB Dept. of Surgical Oncology, MD Anderson Cancer Center
	その他著者 1	Frazier ML
	その他著者 2	Charnsangavej C
	その他著者 3	Katz RL
	その他著者 4	Larry L
	その他著者 5	Abbruzzese JL
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Molecular diagnosis of exocrine pancreatic cancer using a percutaneous technique
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
雑誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リポート 3.シグマ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ann Surg Oncol
	雑誌 ID	
	巻	3
	号	
	ページ	241-246
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1996
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Evans DB Dept. of Surgical Oncology, MD Anderson Cancer Center
	その他著者 1	Frazier ML
	その他著者 2	Charnsangavej C
	その他著者 3	Katz RL
	その他著者 4	Larry L
	その他著者 5	Abbruzzese JL
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Molecular diagnosis of exocrine pancreatic cancer using a percutaneous technique
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
雑誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リポート 3.シグマ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ann Surg Oncol
	雑誌 ID	
	巻	3
	号	
	ページ	241-246
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1996
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Evans DB Dept. of Surgical Oncology, MD Anderson Cancer Center
	その他著者 1	Frazier ML
	その他著者 2	Charnsangavej C
	その他著者 3	Katz RL
	その他著者 4	Larry L
	その他著者 5	Abbruzzese JL
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic masses: A multi - Institutional study of 364 fine-needle aspiration biopsies with histopathologic correlation
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
膵誌情報	研究デザイン	1.内視鏡 2.切開肝胆道検査 3.レジストリ化比較試験 4.非侵襲的化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Diagn Cytopathol
	雑誌 ID	
	巻	19
	号	
	ページ	423-427
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1998
	氏名	所属機関
	筆頭著者	David O
	その他の著者 1	米国内4施設共同研究
	その他の著者 2	Green L
	その他の著者 3	Klusken L
	その他の著者 4	Bitterman P
	その他の著者 5	Attal H
	その他の著者 6	Prinz R
著者情報	その他の著者 7	Gattuso P
	その他の著者 8	
	その他の著者 9	
	その他の著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	他施設共同研究によるCTガイド下生検の後ろ向き研究
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		米国内4施設共同研究	
対象者		同期間にCTガイド下生検を行った膵臓癌364例 (膵癌は183例、良性91例) (1986~1996年)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
		介入 (要因曝露)	CTガイド下生検
		エンドポイント (効果)	区分
		1	検体採取率 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		2	感度 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		3	特異度特 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果		検体採取率94%、感度98%、特異度100%	
結論		CTガイド下吸引生検は不必要な手術を避けるのに有用である。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
	レビューワーコメント	他施設、多数例の後ろ向きの検討である。研究期間が長い。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Large core biopsy of the pancreas under CT fluoroscopy control: Results and complications
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
膵誌情報	研究デザイン	1.内視鏡 2.切開肝胆道検査 3.レジストリ化比較試験 4.非侵襲的化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	J Comput Assist Tomogr
	雑誌 ID	
	巻	26
	号	
	ページ	743-749
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2002
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Zech CJ
	その他の著者 1	Helmberger T
	その他の著者 2	Wichmann MW
	その他の著者 3	Holzknecht N
	その他の著者 4	Diebold J
	その他の著者 5	Reiser MF
	その他の著者 6	
	その他の著者 7	
	その他の著者 8	
	その他の著者 9	
	その他の著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	CTガイド下large core needleの膵癌に対する有用性、合併症の後ろ向き研究
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		ドイツ、ミュンヘン	
対象者		同期間にCTガイド下large core needleを行った膵臓癌57症例、連続63回の検討。悪性49例 (86%) と良性8例 (14%) (1999~2001年)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
		介入 (要因曝露)	CTガイド下large core needle生検
		エンドポイント (効果)	区分
		1	CTガイド下生検の正確率 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		2	合併症の頻度 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果		Core Biopsy は63例中51例正診。感度78%、特異度100%、正診率81%。合併症は急性脾炎1例。	
結論		脾におけるCore biopsy は安全、有用である。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
	レビューワーコメント	Core biopsy 也有用。細胞診と組織診の比較データが考察にあり。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prospective evaluation of the contribution of K-ras mutational analysis and CA 19.9 measurement to cytological diagnosis in patients with clinical suspicion of pancreatic cancer
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.ビデオ・2.リガリス 3.ラジオ化比較試験 4.非ラジオ化比較試験 5.非比較試験 6.コントロール研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	Eur J Cancer
	雑誌 ID	
	巻	36
	号	
	ページ	2069-2075
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2000
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Urgell E
	その他の著者 1	Hospital de la Santa Creu i Sant Pau, Spain
	その他の著者 2	Puig P
	その他の著者 3	Boadas J
	その他の著者 4	Capella G
	その他の著者 5	Queralto JM
	その他の著者 6	Boluda R
	その他の著者 7	Antonjuan A
	その他の著者 8	Farre A
	その他の著者 9	Lluis F
	その他の著者 10	Gonzalez-Sastre F
		Mora J

一次研究の 8 項目	目的	膵癌を疑う病例に対するProspective evaluationによるUSとCT下の細胞診、K-ras mutation、血中CA19-9測定
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	Hospital de la Santa Creu i Sant Pau, Spain	
対象者	膵癌疑い171例中、膵臓癌病変84例（腺癌60例、良性12例）、非腫瘍性病変72例（51例膵炎、15例膵嚢）（1995～1998年）	
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入（要因曝露）	USとCT下の細胞診、K-ras mutation、血中CA19-9測定	
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント 区分	
1	細胞診	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	K-ras	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	CA19-9 の診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	膵癌病変では細胞診の感度75%特異度100%、陽性的中度100%、正診率70%、Krasは感度77%、特異度100%、陽性的中度100%、正診率83%、CA19-9は感度68%、特異度92%、陽性的中度95%、正診率75%、細胞診とKrasの組み合わせが診断能向上に寄与する。 非腫瘍性病変72例においては細胞診の感度17%、CA19-9は67%、Krasは53%、それぞれの組み合わせのうちではCA19-9の入っているものが有効。	
結論	膵癌病変には細胞診とKrasの組み合わせがよい、非腫瘍性病変にはCA19-9測定は細胞診の感度を上げるが、Krasは有用ではない。	
備考		
レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
レビューワーコメント	膵癌の鑑別に細胞診とKrasは有用であるが、非腫瘍には有用でない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical usefulness of KRAS mutational analysis in the diagnosis of pancreatic adenocarcinoma by means of endosonography-guided fine-needle aspiration biopsy
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.ビデオ・2.リガリス 3.ラジオ化比較試験 4.非ラジオ化比較試験 5.非比較試験 6.コントロール研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	Aliment Pharmacol Ther
	雑誌 ID	
	巻	17
	号	
	ページ	1299-1307
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Pellise M
	その他の著者 1	Department of Gastroenterology, Institut de Malalties Digestives, Hospital Clinic, Barcelona, Spain
	その他の著者 2	Castells A
	その他の著者 3	Gines A
	その他の著者 4	Sole M
	その他の著者 5	Mora J
	その他の著者 6	Castellvi-Bel S
	その他の著者 7	Rodriguez-Moranta F
	その他の著者 8	Fernandez-Esparrach G
	その他の著者 9	Llach J
	その他の著者 10	Bordas JM
		Navarro S et al.

一次研究の 8 項目	目的	膵癌診断におけるK-ras遺伝子変異解析の有用性をEUS-FNA下で採取した検体で検討する
研究デザイン	Evidence level IV	
セッティング	Department of Gastroenterology, Institut de Malalties Digestives, Hospital Clinic, Barcelona, Spain	
対象者	同期間に膵腫瘍に対しEUS-FNA下吸引細胞診を行った症例。膵癌33例、对照24例（神経内分泌腫瘍6例、膵管内乳頭粘液腫5例、囊胞腫5例、腫瘍形成性脾炎5例、転移性軽度腫瘍2例、リンパ腫1例）（2001～2002年）	
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入（要因曝露）	EUS-FNA下で採取した検体でのK-ras遺伝子変異	
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント 区分	
1	細胞診の診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	K-ras 遺伝子変異解析による診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	57例136検体中、細胞診は67検体で、遺伝子解析は133検体で診断可能であった。細胞診の診断能は感度97%、特異度100%、遺伝子解析は感度73%、特異度100%であった。十分な検体が採取できない場合には、両者を組み合わせることにより正診率は88%まで上昇する。	
結論	膵癌の診断においてEUS-FNA下で採取した検体による細胞診は非常に有用な診断法である。しかし、採取される検体量が少ない時は、K-ras遺伝子変異解析を追加することが膵癌診断の戦略として重要である。	
備考		
レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
レビューワーコメント	膵癌の診断に関する細胞診とK-ras遺伝子変異解析の診断能のエクソントール研究である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration of the pancreas. Diagnostic utility and accuracy
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
書誌情報	研究デザイン	1.レピューラー 2.ノタリガシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例对照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Acta Cytol
	雑誌 ID	
	巻	47
	号	
	ページ	341-348
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Afify AM
	その他著者 1	Departments of Pathology and Gastroenterology, University of Michigan Medical Center, Ann Arbor, Michigan, USA
	その他著者 2	al-Khadaji BM
	その他著者 3	Kim B
	その他著者 4	Scheiman JM
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	膵癌の診断におけるEUS-FNABの有用性の評価
	研究デザイン	Evidence level V
	セッティング	Departments of Pathology and Gastroenterology, University of Michigan Medical Center, Ann Arbor, Michigan, USA
	対象者	同期間に膵腫瘍に対するEUS-FNABを施行した69例(組織学的に診断のついた40例と経過観察により診断がついた29例)(1995~1998年)
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入(要因曝露)	EUS-FNAB
対象者情報(年齢)	エンドポイント(方法)	エンドポイント 区分
	1	EUS-FNABの診断能 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		悪性、悪性疑い、異型、良性、不明の5段階で細胞診を評価し、前3者を陽性とした場合、細胞診の診断能は真陽性43例、真陰性 9例、偽陽性 2例、偽陰性 11例で感度80%，特異度82%であった。
結論		膵癌の診断におけるEUS-FNABによる細胞診は感度、特異度も高く有用である。偽陰性は検体採取に問題があり、診断がつかない場合は検体量の不足が原因である。EUS-FNAB実行時のDiff-Quikによる細胞診の評価は、検体量が十分かどうかをその場で判断できるため、診断能をあげるためにには施行すべきである。
	備考	
レビューウーマン	レビューウーマン氏名	山雄健次、田近正洋
	レビューウーマンコメント	少数例の後ろ向き研究である。

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Yield of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy in patients with suspected pancreas carcinoma
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
書誌情報	研究デザイン	1.レピューラー 2.ノタリガシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例对照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Cancer
	雑誌 ID	
	巻	99
	号	
	ページ	285-292
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Department of Medicine, University of Alabama at Birmingham, USA
	その他著者 1	Jhala D
	その他著者 2	Chhieng DC
	その他著者 3	Chen VK
	その他著者 4	Eltoum I
	その他著者 5	Vickers S
	その他著者 6	Mel Wilcox C
	その他著者 7	Jhala N
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	膵腫瘍病変に対する診断においてEUS-FNABの有用性を前向きに評価する
	研究デザイン	Evidence level III
	セッティング	Department of Medicine, University of Alabama at Birmingham, USA
	対象者	同期間に膵腫瘍を有した患者101例(組織学的に診断21例、臨床経過で診断80例)(2001~2002年)
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入(要因曝露)	EUS-FNAB
対象者情報(年齢)	エンドポイント(方法)	エンドポイント 区分
	1	EUS-FNABの診断能 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
		最終診断は悪性78例、良性23例であった。細胞診の結果は悪性62例、悪性の疑い5例、異型6例、良性26例であった。2例を除き99例で評価に十分な検体量が採取できた。真陽性 72例、真陰性 23例、偽陰性 4例で偽陽性は存在しなかった。EUS-FNABの嚢胞診の成績は感度94.7%特異度100%、陽性予測値100%、陰性予測値85.2%であった。
結論		EUS-FNABは膵腫瘍の診断において、安全で高い診断能を有する検査法である。
	備考	
レビューウーマン	レビューウーマン氏名	山雄健次、田近正洋
	レビューウーマンコメント	膵腫瘍を有する患者に対し、EUS-FNABの診断能を検討した前向き研究である。

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration biopsy of patients with suspected pancreatic cancer: Diagnostic accuracy and acute and 30-day complications
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.ビデオ 2.内視鏡 3.ラジオ化比較試験 4.非ラジオ化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	Am J Gastroenterol
	雑誌 ID	
	巻	98
	号	
	ページ	2663-2668
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Eloubeidi MA
	その他著者 1	Chen VK
	その他著者 2	Eltoum IA
	その他著者 3	Jhalia D
	その他著者 4	Chhieng DC
	その他著者 5	Jhalia N
	その他著者 6	Vickers SM
	その他著者 7	Wilcox CM
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	膵癌を疑う患者に対するEUS-FNAの診断能と合併症の検討
研究デザイン	Evidence level IV	研究デザイン	
セッティング	Department of Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology, University of Alabama at Birmingham, USA	セッティング	
対象者	同期間の膵臓癌を有する経験疑いの患者158例(最終診断理由, 手術48例, 臨床所見63例, 原病死47例) (2000~2002年)	対象者	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	対象者情報 (国籍)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	対象者情報 (性別)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	対象者情報 (年齢)	
介入 (要因曝露)	EUS-FNA	介入 (要因曝露)	
エンド・バイ (アケルム)	エンドポイント	エンド・バイ (アケルム)	区分
1	EUS-FNAの診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	合併症の頻度 (24hr以内, 急性期) (24-72hr), 30日後	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	EUS-FNA の膵癌に対する診断能は感受度 84.3%, 特異度 97%であった。24hr 以内の合併症は 10/158 例で腹痛 6 例, 出血 2 例等であつた。急性期は評価可能な 20/90 例に少なくとも 1 症状認め、腹痛、膨脹感 10 例、咽頭痛 9 例等を認めた。また軽度の急性胰炎を 1 例に認めた。30 日後には評価可能な 83 例中 1 例も症状を認めなかつた。	主な結果	
結論	EUS-FNAは膵癌の診断に非常に有用である。合併症も通常の上部内視鏡の頻度と同等である。検査後1週間の観察で合併症は拘束される。	結論	
備考		備考	
レビューウーラメント	レビューウーラメント	レビューウーラメント	山健次, 田近正洋
	レビューウーラメント	レビューウーラメント	膵癌を疑う患者に対するEUS-FNAの診断能と合併症を検討した前向き研究である。

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	
	論文の日本語タイトル	膵疾患に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の有用性の検討
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.ビデオ 2.内視鏡 3.ラジオ化比較試験 4.非ラジオ化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
書誌情報	医中誌 ID	
	雑誌名	膵臓
	雑誌 ID	
	巻	17
	号	
	ページ	485-491
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	2002
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	松本学也
	その他著者 1	愛知県がんセンター, 同消化器内科部
	その他著者 2	山雄健次
	その他著者 3	大橋計彦
	その他著者 4	越川 卓
	その他著者 5	上山勇二
	その他著者 6	松浦 昭
	その他著者 7	中村常哉
	その他著者 8	鈴木隆史
	その他著者 9	澤木 明
	その他著者 10	原 和生

一次研究の 8 項目		目的	膵疾患に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の有用性を検討する
研究デザイン	Evidence level V	研究デザイン	
セッティング	愛知県がんセンター, 同消化器内科部	セッティング	
対象者	同期間にEUS-FNAを施行した231例中, 最終診断の得られた127例 (通常型膵癌87例, 脂肪内乳頭腫瘍2例, 転移性膵臓癌1例, 脂肪形成性膵炎12例, 共生性管内乳頭腫瘍10例, 慢性膵炎8例, 脂肪島膵癌3例, 混液性膵腺腫3例, 類上皮胞1例) (1997~2001年)	対象者	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	対象者情報 (国籍)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	対象者情報 (性別)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	対象者情報 (年齢)	
介入 (要因曝露)	EUS-FNA	介入 (要因曝露)	
エンド・バイ (アケルム)	エンドポイント	エンド・バイ (アケルム)	区分
1	検体採取率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	良悪性的診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	Diff Quik (DQ) 法の成績	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4	膵癌と腫瘍形成性膵炎の診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
5	合併症	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	126/127例にて検体採取が可能であり、悪性疾患の正診率88.1%、感度83.3%、特異度100%であった。DQ法を併用することにより、正診率は92.4%上昇した。膵癌と腫瘍形成性膵炎との検討では正診率76.2%、感度75.9%、特異度100%であった。合併症は2.36%認めた。腹水の出現率はEUS-FNA施行の有無で差を認めなかつた。	主な結果	
結論	膵疾患の診断にEUS-FNAは有用で安全な検査法である。	結論	
備考		備考	
レビューウーラメント	山雄健次, 田近正洋	レビューウーラメント	
	レビューウーラメント	レビューウーラメント	EUS-FNABの高い診断能を証明しているが、比較試験を行っていないため、EUS-FNABの有用性に関しては証明できていない。

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌症
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Assessment of complications of EUS-guided fine-needle aspiration
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	EUS-FNAでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レポート 2.疫学調査 3.ラグド化比較試験 4.非ラグド化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Gastrointest Endosc
	雑誌 ID	
	巻	53
	号	
	ページ	470-474
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2001
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	O'Toole D
	その他著者 1	Palazzo L
	その他著者 2	Arotcarena R
	その他著者 3	Dancour A
	その他著者 4	Aubert A
	その他著者 5	Hammel P
	その他著者 6	Amaris J
	その他著者 7	Rusziewski P
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	EUS-FNAの安全性と合併症を検証する
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	フランス、パリの2施設	
対象者	同期間にEUS-FNAを施行した322例、345吸引。うち膵癌変248例(膵腫瘍134例、膵癌疾患114例) (1998~1999年20ヶ月)	
対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
対象者情報(年齢)	なし	
介入(要因曝露)	なし	
ガイドライン(外科的)	エンドポイント	区分
1	合併症の頻度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	膵疾患に対するEUS-FNAの合併症は4例(1.2%)であった。急性脾炎3例、誤嚥性肺炎1例、腫瘍性病変では0だった。膵疾患以外の疾患を加えたEUS-FNAの合併症は1.6%であった。	
結論	EUS-FNAは安全な検査である。	
備考		
レビューアー氏名	山雄健次、田近正洋	
レビューアーコメント	なし	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌症
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Endoscopic ultrasonography-guided fine-needle aspiration biopsy of suspected pancreatic cancer
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	EUS-FNAでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レポート 2.疫学調査 3.ラグド化比較試験 4.非ラグド化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Ann Intern Med
	雑誌 ID	
	巻	134
	号	
	ページ	459-464
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2001
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Gress F
	その他著者 1	Gottlieb K
	その他著者 2	Sherman S
	その他著者 3	Lehman G
	その他著者 4	
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	CTガイド下生検陰性例とERCP下細胞診陰性例に対するEUS-FNABの診断能の前向きコホト研究
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	3次病院 (Indiana University Medical Center)	
対象者	膵癌の疑われた膵腫瘍102症例 (膵癌患者61例と非膵癌患者41例) (1992~1996年)	
対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
対象者情報(年齢)	介入(要因曝露)	CTガイド下生検陰性例とERCP下細胞診陰性例に対するEUS-FNAB
	ガイドライン(外科的)	エンドポイント
1	検体採取不良あるいは診断不能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	感度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4	Likelihood ratio	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	検体採取不良あるいは診断不能18.6%、感度93% (検体不良1.6%除外)、特異度82.9% (検体不良17%除外)。	
結論	EUS-FNABは他の生検手段 (CTあるいはERCP) で陰性かつ詳癌を疑う症例には検査法である。	
備考		
レビューアー氏名	山雄健次、田近正洋	
レビューアーコメント	EUS-FNABの前向き研究。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic fine needle aspiration. A comparison of computed tomographic and endoscopic ultrasonographic guidance
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レピュー 2.リテラチャ 3.シナリ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.ホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Acta Cytol
書誌情報	雑誌 ID	
	巻	47
	号	
	ページ	723-726
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Qian X
	その他著者 1	Departments of Pathology, Brigham & Women's Hospital and Beth Israel-Deaconess Medical Center, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA
	その他著者 2	
	その他著者 3	
	その他著者 4	
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	膵疾患におけるCTガイド下穿刺吸引法と超音波内視鏡下穿刺吸引法の診断能を比較検討する
	研究デザイン	Evidence level IV
	セッティング	Departments of Pathology, Brigham & Women's Hospital and Beth Israel-Deaconess Medical Center, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA
	対象者	同期間に臨床的に膵癌に対し穿刺吸引法を施行した137例 (1995~2001年)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区分せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)
	介入 (要因曝露)	CTガイド下穿刺吸引法53例, EUSガイド下穿刺吸引法84例の比較
	エンドポイント (アウトカム)	区分
1	CTガイド下穿刺吸引法	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	EUSガイド下穿刺吸引法	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	137例の細胞診の結果は悪性35例、悪性疑い10例、異型10例、良性55例、不明27例であった。悪性および疑い例を陽性とした場合のCTガイド下穿刺吸引法の感度は71%, 特異度100%、EUS下穿刺吸引法の感度は42%, 特異度100%であった。EUS下穿刺吸引法の感度が低いのは3cm未満の小さな病変を多く穿刺していることが原因と考えられた。	
結論	結果的にはCTガイド下穿刺吸引法の成績はEUS下穿刺吸引法をしのぐものであったが、これはEUS下穿刺吸引法をより小さく困難な病変に対して施行していることに起因している。	
備考		
レビューウーハー氏名	山雄健次, 田近正洋	
レビューコメント	CTガイド下とEUS下穿刺吸引法の細胞診の成績を後ろ向きに検討した研究である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration and multidetector spiral CT in the diagnosis of pancreatic cancer
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レピュー 2.リテラチャ 3.シナリ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.ホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Am J Gastroenterol
書誌情報	雑誌 ID	
	巻	99
	号	
	ページ	844-850
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2004
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Agarwal B
	その他著者 1	Department of Gastrointestinal Medicine and Nutrition, MD Anderson Cancer Center, Houston, Texas, USA
	その他著者 2	
	その他著者 3	
	その他著者 4	
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	膵癌に対するEUS, EUS-FNAおよびspiral CTの診断における役割の検討。
	研究デザイン	Evidence level IV
	セッティング	Department of Gastrointestinal Medicine and Nutrition, MD Anderson Cancer Center, Houston, Texas, USA
	対象者	同期間に臨床的に膵癌が疑われ、EUS, EUS-FNAおよびspiral CTを行った81例 (2000~2001年)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区分せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区分せず (22)
	介入 (要因曝露)	Multidetector spiral CT
	エンドポイント (アウトカム)	区分
1	EUS	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	EUS-FNA と spiral CT の正診率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	組み合わせによる評価	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4	EUS-FNA に影響する因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	膵癌に対するEUS, EUS-FNAおよびspiral CTの正診率はそれぞれ74%, 94%, 88%であった。Spiral CTで検出できない病変でEUS, EUS-FNAの膵癌の正診率は23/25 (92%) であった。閉塞性黄疸や胆道狭窄を示す膵癌でのEUS-FNAの陰性予測値は2/9 (22%) と低いが、黄疸のない場合にはEUS-FNAの正診率33/34 (97%) と高く、陰性予測値も8/9 (89%) と信頼性が高く、癌の否定に有用である。EUS-FNAの細胞診の正診率は89%であった。	
結論	膵癌を疑う患者の診断においてEUS, EUS-FNAは、multidetector spiral CTを補足するに値する検査法である。	
備考		
レビューウーハー氏名	山雄健次, 田近正洋	
レビューコメント	後ろ向き研究	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺腺癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Intrasurgical pancreas cytology
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.ビューア 2.ノマグラジス 3.シグナル化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Pancreas
	雑誌 ID	
	巻	24
	号	
	ページ	210-214
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2002
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Schramm H
	その他著者 1	Urban H
	その他著者 2	Arnold F
	その他著者 3	Penzlin G
	その他著者 4	Bosseckert H
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目	目的	術中FNACの評価、経時的な検査法の比較。
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	ドイツ, Wald-Klinikum gGmbH, Gera	
対象者	474例, 前期（術後細胞診）1983～1988年は126症例, 後期（術中細胞診）1988～1999年は3474例 (1983～1999年)	
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
対象者情報（年齢）		
介入（要因曝露）	前期（術後細胞診）と後期（術中細胞診）の診断能の比較	
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント 区分	
1	感度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	陽性的中度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4	陰性的中度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	感度、特異度、陽性的中度、陰性的中度は前期が86, 95.8, 93.5, 90.8%, 後期が93.1, 99.1, 99.2, 92.1%。	
結論	FNACは術中腫瘍の確診方法としては適当である。	
備考		
レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
レビューワーコメント	術中迅速併用のFNACは有用な検査法の一つである。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺腺癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	
	論文の日本語タイトル	肺管プラッキング細胞診およびp53染色による肺癌診断における有用性の検討
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.ビューア 2.ノマグラジス 3.シグナル化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	広島医学
	雑誌 ID	
	巻	47
	号	
	ページ	1250-1251
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	1995
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	伊藤正樹
	その他著者 1	石丸正平
	その他著者 2	藤井 澄
	その他著者 3	土田 明
	その他著者 4	花田敬士
	その他著者 5	平田 学
	その他著者 6	岩尾年康
	その他著者 7	江口紀章
	その他著者 8	大石秀夫
	その他著者 9	平岡政隆
	その他著者 10	梶山悟朗

一次研究の 8 項目	目的	肺管狭窄例の肺管プラッキング細胞診とp53免疫染色による肺癌の診断能を検討
研究デザイン	Evidence level V	
セッティング	広島大学医学部、同内科学第一講座	
対象者	同期間にERCPを施行した869例、ERCP下プラッキングは66例、ERCP下絶液吸引細胞診は16例(1985～1995年)	
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
対象者情報（年齢）		
介入（要因曝露）	肺管狭窄を認めた場合、プラッキングを行い細胞診、p53染色を施行した。経管19例、慢性肺炎9例。	
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント 区分	
1	肺管プラッキングと肺液吸引採取の成功率および細胞採取率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	細胞診およびp53免疫染色の肺癌診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	肺管プラッキング、肺液吸引採取の成功率はそれぞれ95.5%、100%で、細胞採取率は95.2%と82.6%であった。細胞診の肺癌診断能：正診10/19 (52.6%)、感度 52.6%、特異度 100%、全正診率 67.9%で、p53免疫染色の肺癌診断能：正診17/19(89.5%)、感度 89.5%、特異度 100%、全正診率92.7%であった。	
結論	肺管プラッキング細胞診にp53免疫染色を加えることにより、肺癌の診断能は向上すると考えられる。	
備考		
レビューワー氏名	山雄健次、田近正洋	
レビューワーコメント	肺液吸引採取によるp53免疫染色のデータが記載されていないため、吸引採取と比較して肺管プラッキング細胞診の有用性は証明されていない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	経口膵管内視鏡と膵管内視鏡下細胞診による膵上皮内癌の診断	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名	確定診断法とは何か	
	研究デザイン	1.ビデオ 2.カラーライク 3.ラグマ化比較試験 4.非ラグマ化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	成人病	
	雑誌 ID		
	巻	38	
	号		
	ページ	37-40	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1998	
	著者情報	氏名 所属機関	
	筆頭著者	上原宏之 大阪成人病センター、同第三内科	
	その他著者 1	中泉明彦	
	その他著者 2	竜田正晴	
	その他著者 3	竹中明美	
	その他著者 4	酒井範子	
	その他著者 5	飯石浩康	
	その他著者 6	大谷透	
	その他著者 7	大東弘明	
	その他著者 8	石川治	
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目		目的	経口膵管内視鏡と膵管内視鏡下細胞診による膵上皮内癌の診断
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		大阪成人病センター、同第三内科	
対象者		同期間に外科的に切除された膵上皮内癌11例 (1991~1993年)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍未記別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女未記別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年 10.老人 11.小児・青年 12.青年・中高年 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢未記別せず (22)	
介入 (要因曝露)		経口膵管内視鏡と膵管内視鏡下細胞診	
エンドポイント (評価指標)		エンドポイント 区分	
1		膵液細胞診の診断能 1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		経口膵管内視鏡の診断能 1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		膵管内視鏡下細胞診の診断能 1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果		膵液細胞診は11例中6例に癌細胞を認めた。経口膵管内視鏡では5例に乳頭状粘膜、4例に不整粘膜、1例に結節状粘膜を認め、また膵管内視鏡下細胞診を行った10例中、10例に癌細胞を検出し、また採取された細胞块も膵液細胞診より多かった。	
結論		経口膵管内視鏡と膵管内視鏡下細胞診は、膵上皮内癌の診断に有用である。	
備考			
レビューウーマン		山雄健次、田近正洋	
レビューウーマンコメント		膵癌診断において経口膵管内視鏡と膵管内視鏡下細胞診の有用性が示唆されるが、少數例の検討であり、注意が必要である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Differential diagnosis between benign and malignant localized stenosis of the main pancreatic duct by intraductal ultrasound of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名	膵癌の診断法：セカンドステップは何か	
	研究デザイン	1.ビデオ 2.カラーライク 3.ラグマ化比較試験 4.非ラグマ化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Gastroenterol	
	雑誌 ID		
	巻	89	
	号		
	ページ	2038-2041	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1994	
	著者情報	氏名 所属機関	
	筆頭著者	Furukawa T Second Department of Internal Medicine, Nagoya University School of Medicine, Japan	
	その他著者 1	Tsukamoto Y	
	その他著者 2	Naitoh Y	
	その他著者 3	Hirooka Y	
	その他著者 4	Hayakawa T	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目		目的	限局性膵管狭窄を呈した膵癌 (PC) および慢性膵炎のIDUSを用いた鑑別診断。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		Second Department of Internal Medicine, Nagoya University School of Medicine, Japan	
対象者		限局性膵管狭窄を呈した26名 (CP 12名, PC 14名)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍未記別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女未記別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年 10.老人 11.小児・青年 12.青年・中高年 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢未記別せず (22)	
介入 (要因曝露)		EUS, CT, ERP vs IDUS (30 MHz)	
エンドポイント (評価指標)		エンドポイント 区分	
1		画像所見(EUS, CT, ERP, IDUS) 1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		診断能 1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果		膵癌診断における感度は、EUS, CT, ERP, IDUSで各々 92.9%, 64.3%, 85.7%, 100%、特異度は 58.3%, 66.7%, 66.7%, 91.7%であった。	
結論		IDUSは限局性膵管狭窄の鑑別診断に有用であった。	
備考			
レビューウーマン		水野伸匡, 澤木 明	
レビューウーマンコメント		今回の研究は限局性膵管狭窄に限定しており、他の病態への応用が問題として残る。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prospective evaluation of pancreatic tumors: Accuracy of MR imaging with MR cholangioangiography and MR angiography
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か
誌誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リサーチ 3.ラグド化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Radiology
	雑誌 ID	
	巻	224
	号	
	ページ	34-41
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2002
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Lopez Hanninen E
	その他著者 1	ドイツ、フンボルト大学
	その他著者 2	Amtthauer H
	その他著者 3	Hosten N
	その他著者 4	Ricke J
	その他著者 5	Bohmig M
	その他著者 6	Langrehr J
	その他著者 7	Hintze R
	その他著者 8	Neuhaus P
	その他著者 9	Wiedenmann B
	その他著者 10	Rosewicz S
		Felix R

一次研究の 8 項目		目的	膵癌を疑われた患者に対するMR, MRCP, MR angiographyの精度を前向きに評価すること。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		ドイツ、フンボルト大学	
対象者		膵癌を疑われた66例 (悪性44例と良性22例) (1999年6月～2000年7月)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)		MRCPとMR angiography	
対象者情報	コードポイント (7件目)	エンドポイント	区分
	1	信号強度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	描出能(MRCP, MR angiography)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
			全体での正診率91%。悪性病変は感度95%。特異度は82%。 手術例の検討では局所の腫瘍進展度と血管侵襲の正診率は89%と94%、肝転移は82%の正診率であった。
			結論
			膵癌患者に対してMRCPとMR angiographyは無侵襲で診断できる方法である。
参考			
レビューワー氏名	レビューワー氏名	澤木 明、水野伸匡	
	レビューワーコメント	前向き研究であり、Nは多くないが比較検討されているためレベルIVとした。MR検査の診断能の検討がされているが、標準であるCTとの比較ではない点に注意が必要。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	
	論文の日本語タイトル	超音波内視鏡所見による膵癌および腫瘍形成性膵炎の鑑別診断
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か
誌誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リサーチ 3.ラグド化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	肝臓
	雑誌 ID	
	巻	11
	号	
	ページ	430-434
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	1996
	氏名	所属機関
	筆頭著者	仲田文造
	その他著者 1	大阪市立大学第一外科
	その他著者 2	西野裕二
	その他著者 3	川崎史寛
	その他著者 4	横松秀明
	その他著者 5	吉川和彦
	その他著者 6	曾和雅生
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	EUSにおける膵癌と腫瘍形成性膵炎の鑑別診断。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		大阪市立大学第一外科	
対象者		膵癌64例と腫瘍形成性膵炎32例 (1986年11月～1995年12月)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)		オリンパス社製ラジアル走査式超音波内視鏡診断装置所見を合計10項目で評価	
対象者情報	コードポイント (7件目)	エンドポイント	区分
	1	直接所見の点数化	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	間接所見の点数化	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
			直接所見は3点以上あるいは間接所見2点以上とすると膵癌の陽性率は86%、特異度は84%、正診率は体部が93%と高く、腫瘍径ではTS1とTS4が100%であった。
			結論
			EUS所見による本点数評価が膵癌と腫瘍形成性膵炎の鑑別に有用。
参考	レビューワー氏名	澤木 明、水野伸匡	
	レビューワーコメント	画像診断で鑑別困難な膵癌と腫瘍形成性膵炎に対する画像診断能の向上の可能性がある点は評価される。超音波検査の術者、検査機器によるバイアスが考慮されていない点は注意が必要であるが、画像診断を客観的に捉えられる工夫がされており、症例数とstudy designよりIVとした。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic tumors: Comparison of dual-phase helical CT and endoscopic sonography
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)
	ガイドラインでの目次名	膵癌の診断法:セカンドステップは何か
書誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リテラチャ 3.シグマ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	AJR Am J Roentgenol
	雑誌 ID	
	巻	170
	号	
	ページ	1315-1322
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1998
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Legmann P Department of Radiology, Universite Rene Descartes, Hopital Cochin, Paris, France
	その他著者 1	Vignaux O
	その他著者 2	Dousset B
	その他著者 3	Baraza AJ
	その他著者 4	Palazzo L
	その他著者 5	Dumontier I
	その他著者 6	Coste J
著者情報	その他著者 7	Louvel A
	その他著者 8	Roseau G
	その他著者 9	Couturier D
	その他著者 10	Bonnin A

一次研究の 8 項目		目的	膵癌の診断および staging における Dual-phase helical CT (DPH-CT) と EUS の比較。
研究デザイン		Evidence level IV	
セッティング		Department of Radiology, Universite Rene Descartes, Hopital Cochin, Paris, France	
対象者		膵癌が疑われた30例 (1993年3月～1996年8月)	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)		膵癌の診断、stagingにおけるDPH-CT vs EUS	
エンドボイント (アウトカム)		エンドボイント 区分	
主な結果	1	抽出能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	診断	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	T 因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	N 因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
結論		診断感度は DPH-CT 92%, EUS 100%。Staging では DPH-CT, EUS とも 93%。切除可能と判断した正診率はともに 90%。切除不能と判断した正診率は DPH-CT 100%, EUS 86% であった。	
備考		すべての項目において両者は同等の診断能であった。	
レビューワー氏名		水野伸匡、澤木 明	
レビューワーコメント		診断における特異度は DPH-CT 100% である一方、EUS 33% であり、さらに 15 mm 以下の小病変での検出率、staging では DPH-CT 67%, EUS 100% であり、両者に各々長所・短所がみられた。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Diagnosis and staging of pancreatic cancer by endoscopic ultrasound
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)
	ガイドラインでの目次名	膵癌の診断法:セカンドステップは何か
書誌情報	研究デザイン	1.レピュー 2.リテラチャ 3.シグマ化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Br J Radiol
	雑誌 ID	
	巻	71
	号	
	ページ	492-496
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	1998
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Akahoshi K Dept. of Internal Medicine III, Kyushu University, Japan
	その他著者 1	Chijiawa Y
	その他著者 2	Nakano I
	その他著者 3	Nawata H
	その他著者 4	Ogawa Y
	その他著者 5	Tanaka M.
	その他著者 6	Nagai E
	その他著者 7	Tsuneyoshi M.
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	膵癌の診断および術前検査としての EUS の有用性と問題点の評価。
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		Dept. of Internal Medicine III, Kyushu University, Japan	
対象者		膵癌が疑われた 66 例	
対象者情報 (国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)		臨床症状、検査結果あるいは他の画像検査にて膵癌が疑われた症例に対する EUS の介入	
エンドボイント (アウトカム)		エンドボイント 区分	
主な結果	1	診断	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	頸部疾患	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	Stage	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
結論		膵癌診断の感度 89%，特異度 97%。感度は腫瘍径、占拠部位に依存しなかった。正診率は腫瘍径 3 cm 以下 90%，3 cm 以上 30%。T 因子、N 因子の正診率は 64%，50% であった。	
備考		EUS は膵癌の早期診断および術前 staging に有望な検査法である。	
レビューワー氏名		水野伸匡、澤木 明	
レビューワーコメント		他の検査方法 (CT 等) との比較がなされていない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Quantitative analysis of Kras gene mutation in pancreatic tissue obtained by endoscopic ultrasonography-guided fine needle aspiration: Clinical utility for diagnosis of pancreatic tumor
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レピュート 2.ガイドライン 3.シグナル化比較試験 4.非シグナル化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	日本臨床細胞学会雑誌
	雑誌 ID	
	巻	37
	号	
	ページ	455-459
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	1998
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	川井俊郎
	その他著者 1	藤井丈士
	その他著者 2	櫻井信司
	その他著者 3	姫子文
	その他著者 4	久力 健
	その他著者 5	海崎泰治
	その他著者 6	久保野幸子
	その他著者 7	本望一昌
	その他著者 8	栗原克己
	その他著者 9	斎藤 建
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	肺癌におけるPTCD胆汁細胞診の陽性率に関する因子を検討する。
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		自治医科大学、同病理学教室、消化器外科教室	
対象者		同期間にPTCないしPTCD胆汁として提出された検体、検査回数1010回、臨床的(63例)、生検(39例)、剖検(6例)、手術(55例)にて最終的に診断された原発性肺癌163例(1977~1996年)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報(年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入(要因曝露)		PTCD胆汁細胞診	
エンドポイント(7項目)		エンドポイント	区分
1		肺癌のPTCD胆汁細胞診の陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		検査回数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3		胆内胆管への浸潤度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4		ビリルビン	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
5		組織型	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
6		間質の量	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
7		腫瘍の大きさと陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
8			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
主な結果		肺癌のPTCD胆汁細胞診の陽性率は52.8%で、検査回数が多いほど陽性率が高くなる傾向を示した。肺癌患者において1回の検査で陽性になる確率は21.8%であった。胆内胆管への浸潤度が高いほど陽性率が高くなる傾向を示し、ビリルビンも高くなる傾向を示した。組織型では高分化腺癌に比較し、中分化腺癌の陽性率が高かった。腫瘍の大きさ、間質の量と陽性率には相関は認めなかった。	
結論		閉塞性黄疸に対し、PTCDが施行されている場合にはPTCD胆汁細胞診は安全かつ容易で、繰り返し施行できる検査である。	
備考			
レビューアー氏名		山雄健次、田近正洋	
レビューアーコメント		今回の標榜163例中53例に経皮穿刺吸引細胞診が施行され41例が陽性であった。診断能からみた場合、PTCD胆汁細胞診の有用性は疑問である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	Quantitative analysis of Kras gene mutation in pancreatic tissue obtained by endoscopic ultrasonography-guided fine needle aspiration: Clinical utility for diagnosis of pancreatic tumor
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
	研究デザイン	1.レピュート 2.ガイドライン 3.シグナル化比較試験 4.非シグナル化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
書誌情報	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Am J Gastroenterol
	雑誌 ID	
	巻	97
	号	
	ページ	2263-2270
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2002
著者情報	氏名	所属機関
	筆頭著者	Tada M
	その他著者 1	Komatsu Y
	その他著者 2	Kawabe T
	その他著者 3	Sasahira N
	その他著者 4	Isayama H
	その他著者 5	Toda N
	その他著者 6	Shiratori Y
	その他著者 7	Omata M
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	肺癌の診断に関する組織診とKras遺伝子変異の分析の併用が診断能の向上に寄与するか否かを検討する。
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		東京大学消化器内科、同内視鏡科	
対象者		肺癌癌性病変34例(標榜26例、疑疾8例)(1998~2001年)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報(年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入(要因曝露)		EUS-FNAとERCP下経管液の組織診、K-ras半定量(2%以上)の比較	
エンドポイント(7項目)		エンドポイント	区分
1		EUS-FNAとERCPのK-ras陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		細胞診の正診率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
4			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
5			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
6			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
7			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
8			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
9			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
10			1.主要 2.副次 3.その他 (-)
主な結果		肺癌癌性でのK-ras陽性は、EUS-FNAで77%、ERCP63%であった。細胞診はEUS-FNA 62%ERCP 5%であった。EUS-FNA細胞診+K-rasは18%，ERCP+K-ras 63%であった。特異度はすべて100%、正診率はEUS-FNA細胞診+K-rasは85%，ERCP+K-ras 71%，トータルで91%。	
結論		K-ras測定はEUS-FNA、ERCP細胞診の補助診断となりうる。高濃度K-rasは癌、陰性は良性の可能性を増加させる。	
備考			
レビューアー氏名		山雄健次、田近正洋	
レビューアーコメント		K-ras半定量は補助診断には十分な効果あり。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺腺癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	
	論文の日本語タイトル	EUS-FNABによる肺癌と腫瘍形成性肺炎の鑑別診断
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
書誌情報	研究デザイン	1.ビデオ 2.ナレーティブ 3.ラジオ化比較試験 4.非ラジオ化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	消化器画像
	雑誌 ID	
	巻	4
	号	
	ページ	286-290
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	2002
	氏名	所属機関
	筆頭著者	山雄健次 愛知県がんセンター、同消化器内科部
	その他著者 1	大橋計彦
	その他著者 2	中村常哉
	その他著者 3	鈴木隆史
	その他著者 4	澤木 明
	その他著者 5	原 和生
	その他著者 6	大久保賢治
	その他著者 7	松本学也
	その他著者 8	森山一郎
	その他著者 9	田中匡介
	その他著者 10	松枝 順, 他

一次研究の 8 項目	目的	肺癌と腫瘍形成性肺炎の鑑別診断におけるEUS-FNABの有用性の検討			
	研究デザイン	Evidence level V			
	セッティング	愛知県がんセンター、同消化器内科部			
	対象者	同期間にEUS-FNABを実施し、下記項目を検索し得た肺管癌および腫瘍形成性肺炎、計70例（肺管癌60例、腫瘍形成性肺炎10例）(1998~2001年)			
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)			
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)			
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)			
	介入（要因曝露）	EUS-FNAB			
コードネーム（アクリル）	エンドポイント	区分			
1	細胞診の診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)			
2	組織診の診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)			
3	K-ras遺伝子変異	1.主要 2.副次 3.その他 (1)			
4	肺癌診断能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)			
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
主な結果	肺癌の細胞診の診断能は感度55/60例(91.7%)、特異度10/10例(100%)、組織診の診断能は感度40/51例(78.4%)、特異度6/6例(100%)、K-ras遺伝子変異の陽性率は肺管癌で44/60例(73.3%)、腫瘍形成性肺炎は0/10例(0%)であった。総合した肺癌の診断能は感度95%、特異度100%と高率であった。				
	EUS-FNABにより採取された検体で細胞診、組織診、K-ras遺伝子変異の検査を組み合わせることにより、肺腫瘍病変の良悪性の鑑別がほぼ可能となる。				
結論	備考				
	レビュワー氏名	山雄健次、田近正洋			
著者情報	レビューコメント	後ろ向き研究である。			

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	肺腺癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	
	論文の日本語タイトル	肺管内視鏡とK-ras遺伝子による肺癌の診断
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドラインでの目次名	確定診断法とは何か
書誌情報	研究デザイン	1.ビデオ 2.ナレーティブ 3.ラジオ化比較試験 4.非ラジオ化比較試験 5.非比較試験 6.コホト研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	消化器内視鏡の進歩
	雑誌 ID	
	巻	50
	号	
	ページ	116-120
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.生物学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	1997
	氏名	所属機関
	筆頭著者	内田英二 日本医科大学、同第一外科
	その他著者 1	恩田昌彦
	その他著者 2	中村慶泰
	その他著者 3	井上松恵
	その他著者 4	山村 遼
	その他著者 5	相本隆幸
	その他著者 6	丸山 弘
	その他著者 7	横山滋彦
	その他著者 8	田尻 孝
	その他著者 9	山下精彦
	その他著者 10	山口敏和、他

一次研究の 8 項目	目的	肺管内視鏡下に採取した肺液と内視鏡的逆行性胆管肺管造影(ERCP)施行前の通常のカテーテル採取肺液とERCP前後の十二指腸洗浄液におけるK-ras遺伝子変異の解析			
	研究デザイン	Evidence level V			
	セッティング	日本医科大学、同第一外科			
	対象者	同期間に経口総管鏡を実施した33例（肺癌12例）およびERCP施行前後に経鼻総管鏡を実施した60例（肺癌10例）(1995~1996年)			
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)			
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)			
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)			
	介入（要因曝露）	肺管内視鏡下に採取した肺液、カテーテル採取肺液および十二指腸洗浄液の比較			
コードネーム（アクリル）	エンドポイント	区分			
1	K-ras遺伝子変異	1.主要 2.副次 3.その他 (1)			
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()			
主な結果	肺癌の内視鏡下に採取した肺液中のK-ras遺伝子変異は肺癌で7/7例、良性肺疾患2/5例が陽性であった。肺癌では肺液中で8/10例が陽性であったのに対して、十二指腸洗浄液ではERCP前まですでに5/10例、ERCP後では8/10例と肺液と同率であった。なお、肺液で陰性であった2例がERCP後で陽性であった。				
	十二指腸洗浄液のK-ras遺伝子変異の検出は、通常のカテーテルからの肺液採取とほぼ同率で、両者を組み合わせることにより検出率の向上が期待できる。				
結論	備考				
	レビュワー氏名	山雄健次、田近正洋			
著者情報	レビューコメント	肺液が採取困難な症例においては、施行する価値があると思われるが、良性疾患における検出率の高さが問題と考えられた。			

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	MUC1 and MUC2 expression in pancreatic ductal carcinoma obtained by fine-needle aspiration
	論文の日本語タイトル	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
書誌情報	研究デザイン	1.ビデオ 2.リマーカシス 3.ラジカル化比較試験 4.非ラジカル化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	Cancer
	雑誌 ID	
	巻	99
	号	
	ページ	365-371
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)
	発行年月	2003
	氏名	所属機関
	筆頭著者	Chhieng DC
	その他著者 1	Benson E
	その他著者 2	Eltoum I
	その他著者 3	Eloubeidi MA
	その他著者 4	Jhalia N
	その他著者 5	Jhalia D
	その他著者 6	Siegel GP
著者情報	その他著者 7	Grizzle WE
	その他著者 8	Manne U
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	穿刺吸引細胞診で得られた検体からMUC1, MUC2の表現型のパターンを測定し、粘管癌のマーカーとしての有用性を検討する
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		Department of Pathology, University of Alabama at Birmingham, USA	
対象者		同期間に膵腫瘍病変に対し、EUS下穿刺吸引細胞診を施行した39例(膵癌24例)。(2000～2002年)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報(年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入(要因曝露)		MUC1, MUC2の表現型のパターン	
エンドポイント(アウトカム)		エンドポイント 区分	
主な結果	1	MUC1発現率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	MUC2 発現率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
結論		膵癌24例中23例 (96%) にMUC1が発現し、内21例で membranous and variable cytoplasmic pattern を示した。慢性胰炎、良性疾患での発現は有意に低かった。一方、MUC2は3例の膵癌と1例の慢性胰炎で発現を認めた。MUC1の膵癌診断能は感度96%、特異度94%であった。	
備考		MUC1の発現を検索することは、膵癌診断の補助的なマーカーになる可能性がある。一方、MUC2はその可能性は少ない。	
レビューワー氏名		山崎健次、田近正洋	
レビューワーコメント		24例という少數例の検討である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄
基本情報	対象疾患	膵臓癌
	タイプ	臨床専門雑誌
タイトル情報	論文の英語タイトル	
	論文の日本語タイトル	膵液中p53抑制遺伝子変異の検出とその膵癌診断への応用に関する研究
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)
	ガイドライン上の目次名称	確定診断法とは何か
書誌情報	研究デザイン	1.ビデオ 2.リマーカシス 3.ラジカル化比較試験 4.非ラジカル化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)
	Pubmed ID	
	医中誌 ID	
	雑誌名	金沢大学十全医学会雑誌
	雑誌 ID	
	巻	106
	号	
	ページ	533-544
	ISSN ナンバー	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)
著者情報	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)
	発行年月	1997
	氏名	所属機関
	筆頭著者	山口泰志
		金沢大学がん研究所、同内および関連施設
	その他著者 1	
	その他著者 2	
	その他著者 3	
	その他著者 4	
	その他著者 5	
	その他著者 6	
	その他著者 7	
	その他著者 8	
	その他著者 9	
	その他著者 10	

一次研究の 8 項目		目的	膵液中のp53遺伝子分析の臨床的意義を解明する。
研究デザイン		Evidence level V	
セッティング		金沢大学がん研究所、同内および関連施設	
対象者		同期間に内視鏡的に純胰液を採取できた膵癌患者46例(膵癌26例、粘液癌20例)。(1983～1997年)	
対象者情報(国籍)		1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報(性別)		1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報(年齢)		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入(要因曝露)		膵液中のp53遺伝子	
エンドポイント(アウトカム)		エンドポイント 区分	
主な結果	1	膵液中p53遺伝子変異の検出率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	同 K-ras 遺伝子変異の検出率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
結論		p53遺伝子変異は膵癌患者で11/26例 (42.3%) に検出され、非癌症例では検出されなかった。K-ras遺伝子変異は膵癌患者でPCR-RFLP法で21/25例(84.0%) HPA法で17/26例 (65.3%) 検出された。K-ras (RFLP法) と p53遺伝子変異の組み合わせで23/25例 (92.0%) が検出可能になる。	
備考		膵液中のK-ras遺伝子変異の検出に加え、p53遺伝子変異を組み合わせることにより膵癌の診断能は向上する。	
レビューワー氏名		山崎健次、田近正洋	
レビューワーコメント		膵癌におけるp53遺伝子変異単独陽性例は2例しかなく、K-rasに加え、p53遺伝子変異を検出することに有用性を見出すことは本検討では難しい。	